

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「つないで、つないで、一つのお話」 教材名「つないで、つないで、一つのお話」

2 単元の目標

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)ア）
自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。（A(1)エ）
前の人が話した内容を受け、話の筋がつながるように言葉を足す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。（A(1)エ）	①前の人が話した内容を受け、話の筋がつながるように言葉を足す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

前の人が話した内容を受け、話の筋がつながるように言葉を足す。この教材では、共同で作った話の流れと、前の発言を受けた工夫の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

人物・場所・起きたことを短いメモで残し、次の話し手が参照できるようにする。面白さの競争より話のつながり確かめる。想定する難しさは、自分の思い付きだけを話し、それまでの人物や出来事とつながらない。評価では、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめているかを、共同で作った話の流れと、前の発言を受けた工夫の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。教師の独自の短い導入に、交代で続きの出来事を加える。前の内容と矛盾しないかを聞き合い、まとまりを確かめて話を終える。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。(A(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「前の出来事を受けるなら、どんな続きが考えられますか」 【めあて】前の人が話した内容を受け、話の筋がつながるように言葉を足す。 〈予想される児童の反応〉 ・前の出来事を受けると次の場面がつながる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「前の出来事を受けるなら、どんな続きが考えられますか」 教師の独自の短い導入に、交代で続きの出来事を加える。前の内容と矛盾しないかを聞き合い、まとまりを確かめて話を終える。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・前の出来事を受けると次の場面がつながる。 ・人物が急に変わった理由を補いたい。	人物・場所・起きたことを短いメモで残し、次の話し手が参照できるようにする。面白さの競争より話のつながり確かめる。 想定する難しさ：自分の思い付きだけを話し、それまでの人物や出来事とつながらない。 評価では、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめているかを、共同で作った話の流れと、前の発言を受けた工夫の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 共同で作った話の流れと、前の発言を受けた工夫の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・人物が急に変わった理由を補いたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「前の出来事を受けるなら、どんな続きが考えられますか」。中央は、共同で作った話の流れと、前の発言を受けた工夫の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

